横浜市立 根岸中学校　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

根岸中学校は生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、自らの可能性を信じてたえず成長していこうとする人間の育成を目指します。

【知】自ら進んで学び、粘り強く課題を解決する力　【主体的に学びに向かう態度】
【徳】自他の生命を尊重し、やさしさと感謝の気持ちで他者に接する心　【寛容性】
【体】基本的な生活習慣を身につけ、健康・体力つくりに励む姿　【健康の維持】
【公】地域とのかかわりを大切にし、進んで行動する態度　【地域・社会性】
【開】様々な人々と関わり、社会の発展に貢献する生き方　【より良く生きようとする態度】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
・心身のたくましさと心のしなやかさを兼ね備えた生徒 ・思いやりの心をもつ生徒 ・自立のための基礎力	【主体的に学びに向かう態度】 【寛容性】 【健康の維持】 【地域・社会性】 【より良く生きようとする態度】

中期取組目標

・生徒自身が自らの学びをデザインできるような授業改善
・ICT情報機器の効果的な活用の研究・実践
・一人ひとりの生徒が安心して過ごせる学校づくり
・さまざまな人や地域・社会と連携した自分づくり教育の充実
・生徒の健康で健全な育成と安全な学校生活の実現

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 担当　学習指導部	①生徒自身がよりよくICT機器を活用し、見通しをもって自らの学びをデザインするような「主体的な学び」の授業デザインの実現のための研修の実施と実践を進める。②「主体的な学び」の実現を図るために、学力・学習状況調査のデータ結果を活用し、具体的な授業改善に生かす。③「主体的な学び」の妥当な評価のための「根岸中スタンダード」作成を引き続き進める。

学力向上に関わる本校の状況

学力学習状況調査の結果から踏まえる本校の生徒の状況として、中学3年生においては、学習意識・生活意識が全般的に低く、それに伴う学力の低さが見受けられる。また、中学2年生においては、学習意識・生活意識共に平均的であり、それに伴い学力も平均より高めである。学年によって差はあるものの、学校全体で学習に対しての意識の向上を実現させることで、学力向上につながると考えられる。また、学校評価アンケートの結果からは、学習習慣の自己認識が曖昧な生徒も存在していることがうかがえた。学習の習慣をつくるために、学習の目的意識や計画性をもたせ、「家庭学習のやり方」を具体的に考えたり、「学習習慣を促す仕掛け」を導入するなどの工夫が必要である。また、約1割程度の生徒が学習や授業について「わかりにくい」または「わからない」と回答していることから、学習目標を明示したり、学習の見通しを持たせることや、板書や資料の構造化を強化し、ICT等を活用した視覚的なわかりやすさにも力を入れる必要性がある。

今年度の目標

（1）「主体的な学び」の実現のための授業デザインの確立と実践を行う。
（2）「主体的な学び」の適切な評価を行うための「根岸中スタンダード」の策定を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	（1）根岸中学校の生徒自身が自らの学びをデザインする「主体的な学び」の姿を明らかにするための職員研修を実施し、生徒の「主体的な学び」の実現の手立てを次の視点から考え、授業改善に生かす。 ①ICT機器の活用による、より良い学びのデザインによる「主体的な学び」 ②生徒自身が自らデザインした学びにおける振り返りからの授業改善の充実 （2）学習の指導と評価に関する職員研修会を開催し、他教科の評価の実際を理解しながら、根岸中のすべての職員と生徒、保護者が共通の認識の下での評価基準である「根岸中スタンダード」の策定を引き続き進める。
下半期	（1）全国及び横浜市学力・学習状況調査の結果分析結果及び、学校評価アンケートの「保護者回答」から読み取れる本校生徒の成果と課題を明らかにして、具体的な手立てを施す。 （2）学校評価アンケートの「保護者回答」や、生徒自らの学習の振り返りなどから読み取れる、本校の生徒や保護者における学習指導と評価に関する受け止め方について全教員で共有し、それをもとに「根岸中スタンダード」の策定を目指す。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心の育成 担当　特活指導部・道徳	①道徳科をはじめとするあらゆる場面で、生徒が主体的に考えたり、他者とのコミュニケーションを図ったりすることで、自らの在り方を振り返り自己実現を図るような道徳教育の実施を行うとともに授業改善を行う。②生徒会活動や学級活動等を通じて、自他の尊重や発信力向上を目指し、より良い集団づくりに向けての主体性を育む。

豊かな心に関わる本校の状況

明るく素直であり、基本的な生活習慣が身についている生徒が多い。比較的落ち着いた学校生活を送り、学校行事や生徒会活動、学級活動への取組も良好である。また、生徒会本部主催で実施している3学年交流会や各学年共通で行っている班活動など他者とのコミュニケーションを図り、より良い集団づくりのための様々な活動に取り組んでいる。
しかし、ほぼ1小1中の関係であることから、新たな人間関係や幅の広い人間関係が構築されにくく、大きな変化への対応が難しい生徒も少なくない。また全体的に他者へ依存する傾向が強く、自ら考え、主体的に粘り強く取り組む力や見通しをもって計画的に行動する力が乏しいなどの課題が見受けられる。それらを踏まえるとさらに生徒自身の自己有用感などを高めていく必要性がある。
生徒一人ひとりが「何ができるのか」を模索し、自分ごとして捉え、自ら主体的に行動できる力を養っていく必要がある。また、困難な状況においても、折れないたおやかな心をもち続けられるたくましい力を学級活動や学校行事、道徳の授業を通して育む必要がある。

今年度の目標

他者とのかかわりの中で他者を思いやり、より良い集団となるように働きかけ、自らの考えを発信する力を身につけ、自らを振り返り、自己実現を図るための主体性を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○道徳科の授業にこにおいて、題材を通じて自ら主体的に考え、他者との話し合いを通し、自己の在り方を顧みることのできる授業の実践を図る。 ○班活動や学級内のリーダーを中心とした学級づくりや他学年との交流活動などを通して、他者とのコミュニケーション活動の機会を設け、お互いを認め合い、さらに自主的に高めあう集団づくりを目指す。 ・YPプログラムの実施と活用 ・学級活動や生徒会活動などの主体的な活動の実践 ○体育祭や文化祭、生徒会活動において、生徒自らが考え、主体的な活動を進めていく中で他者理解を深め、生徒一人ひとりが輝くことのできる温かな思いやりのある集団づくりを目指す。 ○年間を通して、生徒自身の自己肯定感を高め、自らの考えを発信できる雰囲気づくりや活動の充実、リーダーシップやフォロワーシップが発揮できる環境づくりを行い、全ての教育活動の中で推進を図っていく。
下半期	○各学年でローテーション道徳を実施し、様々な教材や考え方に触れ、対話的で深い学びを目指すことで、様々な視点から物事を捉え、主体的に自己の在り方を振り返ることができる授業実践を進めていく。 ○総合的な学習の時間の１つの軸である平和学習などと関連させながら教科横断的な道徳の授業実践を行い、自他の生命を尊重する心や温かな思いやりのある心で他者と関わることのできる心の育成を目指す。 ○これまで実施してきたYPをより効果的に活用できるように工夫し、様々な場面でのコミュニケーション活動や生徒会活動、学級活動が主体的かつさらに活性化されるように活動を推進していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 担当　保健安全指導部・健やかな体育成	①体育的行事や学年集会などを生徒が主体となって運営し、協同して功を奏す達成感を自信につなげていく。 ②健康を維持するために正しい情報の取捨選択ができる力を育む。身近な健康課題を自分事として捉え改善する意欲を持たせる。

健やかな体に関わる本校の状況

スポーツテストの結果から体格に関しては、男子はほぼ全国、横浜市の平均と同じ結果となった。女子に関しては全国、横浜市より高い数値となった。以前から行っている食育の成果があらわれている。
スポーツテストの結果から、男女ともに全国平均と比べて上体起こし、20mシャトルラン、ハンドボール投げ50m走が低いことが見受けられる。年度によって差はあるが、おおむね筋力や瞬発力に関する部分と持久力に関する部分の得点が低く出る傾向が見受けられる。

今年度の目標

（1）運動する楽しさを味わうことができる運動習慣の確立。
（2）成長期に必要な栄養を意識してバランス良く食事をとり、自らの健康生活に活かす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	（1） 協力することにより達成感を味わうことができる「長縄」では、生徒の自発的な運動習慣の確立へとつなげられるよう、練習に取 り組む時間を全校で揃える工夫を行う。 ①練習時間の持ち方を工夫 して、自分たちの技術向上を目指した練習に取り組む。 ②体育委員な ど生徒が中心になって運動習慣を育む取組について企画。 （2）食品ロスなどに関心をもち、給食の食べ残しやごみの問題について身近なものとしてとらえ、日本の食料自給率や地産地消など、環境問題にも関心を持ち自分たちに出来ることを探る。
下半期	（1）体育の授業では力強い動きと運動を持続する力を向上させる運動に取り組む意識づけをさせる。 ①運動が得意な生徒だけではなく、苦手と感じている生徒も一緒に取り組み、運動する楽しさを主体的に味わう機会を増やす。 （2）SDGsの視点を大切にして、生徒自身が自分たちで何ができるかを考える。 ①成長期に必要な体をつくるためには「食」に関心を持ち、自らが積極的にバランスの良い食事をとり、免疫力の向上や健康に学校生活が送れるようにする。